

## 委員からの意見集約結果

### 【論点1】

- ・医療的ケア児、障がい児、家庭環境に特別な配慮が必要な家庭の子どもなど、保育のニーズは多様化しています。
- ・また、地域で子育て世帯が孤立しないように、普段、保育所等を利用していない子どもが保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度」が令和8年度から全国一斉に実施される予定です。
- ・その一方で、保育の現場では近年、保育士等の不足が課題となっています。

→ 必要な人材育成や確保などの面で、どのような対策が有効であると考えますか。

#### ○短期的な視点

- ・潜在的な有資格者の掘り起こしのための取り組み（勤務時間、待遇面での配慮・工夫）
- ・専門学校生を有償のボランティアとして保育に関わらせる（現場への人的支援と次代の人材育成の仕組みづくり）

#### ○中長期的な視点

- ・保育士を目指す学生の掘り起こし（奨学金制度、保育士の待遇の改善等）

#### ○資格を取得した学生が、他業種、他市町村に流れないための手立て（待遇等の改善）

#### ○保育士免許保有者が隙間時間を利用した短時間で働ける仕組みづくり

（その場合、保育の質を下げない対策を考える必要がある。）

#### ○保育士の昇給、職場環境の改善

#### ○保育士の免許を持っているが保育士として働いていない人の活用、様々な働き方を支援

#### ○保育士の免許を持っていない人の活用（雑務や心配な児童の見守り 等）

#### ○学生ボランティアの活用（専門学校との連携）

#### ○保育士として復職しやすい環境の整備

##### ①労働条件の処遇改善

##### ②子育て中も働ける環境づくり

##### ③ブランクによる不安を軽減するための研修等の実施

#### ○保育士の確保に向けた養成校への入学者の増加、保育士の魅力発信、市独自の確保策の展開

#### ○人材紹介業者を活用した場合の各園への補助

#### ○潜在保育士の把握、無資格者の登用

#### ○少子化が今以上に進んだ場合、子どもと増員した保育士との人員バランスの検討

#### ○保育士の待遇の改善

#### ○結婚・出産を経て保育現場から退いた方が復帰しやすい職場環境の整備

#### ○不安を感じることなく、やりがいを見だし、長く勤務していける保育現場の環境づくりが必要

- 将来の夢が保育士という子どもは多くいるが、就職のタイミングで保育士以外の職業を選ぶ、または、保育士になっても離職してしまう方が多いため、そこにどのような課題があるのか検証する必要がある
- 保育士資格が取得できる養成校との連携が必要である
  
- 保育士の養成や保育士が働き続けられる職場づくりが重要
- 正規職員以外の職種を増やし、希望の就労形態を実現する
- システムを導入するなどして、業務の効率化を図る
- 担任であっても無理なく休める体制づくりをする

## 【論点2】

- ・放課後の子どもの遊びと生活の場である放課後児童クラブなどをはじめ、こども・若者の視点に立った多様な居場所づくりが必要とされています。

→ 地域資源（既存の公共施設や民間による活動など）を活用するなど、  
新たな居場所のあり方について、どのように考えますか。

- 以前、新しくなった釧路中央図書館に高校生があつまって、他の利用者に迷惑をかけているということが問題となった。高校生にとっては、図書館が「居場所」としての機能を果たしているのだと思う。
- 生涯学習センターのロビーや、Moo のテーブルのあるところで、参考書を開いて学習している若者の姿を見かける。
- 自習室のようなスペースを中高生は求めているのだと思う。また、他町では、wifi のある公共施設にゲーム機をもって子供があつまるといことも聞いたことがある。フリーWi-Fi も子供の居場所にとってのひとつのアイテムではないではないか。
- 児童センターの機能として、こども遊学館があるはず。地域のコミュニティセンター、生涯学習センター等も大人向けにつくられた施設なのかもしれないが、小中高生の居場所として開放してはいかがか。
- 多世代が同じ施設を利用するような仕掛けが大切かと思う。
- 札幌市手稲区にある生涯学習総合センター「ちえりあ」の中に、予備校があつて、高校生が一生懸命勉強している姿や、中高生のダンスや、音楽演奏のサークルが会場を利用して練習しに来ている姿が新鮮だった。
- まなぼつとやこども遊学館、コアかがやき等のコミュニティーセンターや、地区会館をそのような多世代が行きかう場へとアップデートしてはどうか。
- 子どもが減っているので学校には空き教室があるはず。それらを利用して学校の中に児童館を併設する。（他の自治体では学校の中に児童館がある。）
- 釧路のように学校から児童館が遠く、災害が起きたときに、建物から建物への移動は親にとっては心配。
- 学校の中に児童館があることで、子ども達は天候に左右されず、災害等が起きても安心できる。
- 町内会の活動をサポート
  - ・町内会は同地域に住む子を見守る上でとても良い集まり。核家族が増えている昨今、町内会の結びつきを強くし、地域全体で子供を育てる環境を今一度大事にする。
  - ・居場所がない児童の多くは、親が多忙、貧困、片親、親の理解・協力が得られず、課外活動、習い事や部活などに参加できない子ども。そのような児童・生徒も町内会の活動であれば、自分ひとりで歩いて参加できるのではないか。
  - ・中学生や高校生が活動を企画・実行するなど受け身ばかりではなく、子供が主となって活動する形を増やしていけば、活動する中で関わる大人とも自然と関係を築き、居場所を作れるのではないか。（子供カフェ、お祭りの手伝い）
- 保護者の働き方も多様化しているので児童館の開園時間は現状ニーズをカバーできているのか。また、午後7時までの開所は難しいか。

○子育て支援拠点センター（東中西）の対象年齢を小学生までに拡大してはどうか。

○NPOが運営する無料塾（低価格で運営されている学習塾）が地域や行政と連携し、展開することが可能ではないか。

○学習できる場の存在は、学力向上にも繋がり、異年齢交流の場となる。

○放課後児童クラブの他に学習をメインとする居場所を作ること、子どもの健全育成・社会教育を進めていくのではないかな。

○「地域食堂」、「てらこや」など民間の活動も活発に行われているが、知らない人が多くいると考えられるため、SNSなどを活用した情報発信が必要である。

→こども支援課のプラットフォーム事業でマップ作りを進める予定

○学校とは違った視点で学べる施設、イベント、チャレンジ教室などを充実させてはどうか。

○年齢ごとに分けし、幅広い年齢の子供が安心して遊べる公園の整備を進めるべき。

○小学生の保育について

- ・学童保育は入会する際のハードルが高いため、短時間勤務の保護者でも利用できるような仕組みを作るべき。
- ・学校を利用した「てらこや」のような児童の居場所を作るべき。

### 【論点3】

- ・共働き世帯が増加傾向にある中で、例えば、女性が働きながら子育てしやすい環境づくりや、男性の家事・子育てへの主体的な参画促進や拡大などが求められています。

#### → 共働き世帯への有効な支援策について、どのように考えますか。

- ニーズ調査の数字を見ると、児童数が約12,000人で、「日頃子供を見てもらえる親戚・知人がいない」のが、17.2%で2.3%の増、人数にして、約2,000人は、何かあっても預かってもらえない状況にある可能性がある。
- 共働き世帯への支援策の根本は、社会全体が子供は地域の財産として、支えていく仕組みを構築することではないか。現在ある仕組みの積極的な周知と、利用が伸び悩んでいる事業があるとしたならば、その要因を分析して、「子供のために」有益な子育て支援へ何をアップデートしなければならないかの検討が必要かと思われる。
- 子育て支援を通して、例えば、「参観日や学校行事だけでなく、学級行事や小さなあつまりにもお母さんにきてほしい」とか「自分のことをわかってほしい、話をきいてほしい、一緒に過ごす時間を増やしてほしい」というような「子供の願い」がかなえられるような視点からとらえ返したときに、今の取組みの改善点はないか検討してはどうか。
- 放課後等デイサービスの利用がとても増えている。特別支援の子だけでなく、すべての子が利用できるようにする。
- 児童館の預かり時間を延長する。
- 共働き世帯が増えて、朝も子どもが一人で過ごしている家庭がある。朝から学校を開放し、仕事として有償のボランティアを確保し、7時くらいから子どもを預かる制度があるとよい。朝食も家庭科室で準備してあげるともっと良い。
- ファミリー・サポート・センターの認知の徹底
  - ・私自身子供を産んで初めてこの存在を知った。提供会員を増やす必要があるなら、もっと認知を徹底してはどうか。(小学校や幼稚園にフライヤーを配ってもらうなど)
  - ・ファミリー・サポート・センターのウェブサイトが分かりにくい。
  - ・ファミリー・サポート・センターの説明会講習会を増やしてはどうか。(子育て支援センターで行うなどの方法やオンライン講座での実施はどうか。)
- 子育てサポートセンターすくすく(ファミリー・サポート・センター)について
  - ・すくすくのホームページが古く感じるため、イメージ向上のためリニューアルすべき。
  - ・LINEやInstagramを利用した依頼受付や相談ができるようになるとより利用しやすくなる。
- 男性が主体的に家事や子育てについて考える機会が重要
  - ・男性の育児や家庭内での分担・子育てについて考える機会はすでにあるが、子育てに意識が高い男性以外には響いていないため、意識が低い方に対するあらゆるアプローチが必要。

- ファミリー・サポート・センターの利用促進に向けた周知が必要
- 企業によって共働きや子育てに関する考え方に格差を感じるため、企業それぞれが子育て世代の現状や課題について考える機会が必要
  
- 社協では子育てサポートセンター（ファミリー・サポート・センター）を展開しており、習い事や部活動などの送迎ニーズが増えている。しかし、支援する会員が増えておらず、ニーズに応えられないこともある状況である。
- 子育てサポート事業の拡充について、今後検討していく必要がある。
  
- 労働時間の見直しや、在宅勤務の推進
- 父親の育児参加のため、育児休暇を取得しやすい環境を企業側が作る
- 親子で楽しめるイベントや子育て支援施設の拡充
- 子育て世帯の経済的負担の軽減

## 【その他の内容について】

○市内の児童館が古い。この夏は暑くて児童も大変だと思う。

○児童館の先生方の研修をしっかりといただきたい。情操を豊かにすることを目的とする施設なのに、一部で子ども達への言葉遣い、態度が悪いことが見受けられる。

○釧路市の LINE を登録しているがとても良い。

○Haport のインスタグラムもとても良い。

○「ちびっこマンデー」により、M00 のテナント利用が増えている。駐車場の無料時間を 30 分から 1 時間に延長することができれば、一般市民の利用も増えると思う。

○国際交流センターの駐車場に勝手に止めている人が見受けられる。市中心部の駐車場を拡充する目的でイベントが開催されていない日の一般開放をすべき。

○市中心部で開催されるイベントは公共交通機関の利用が推奨されているが、実際に公共交通機関を利用している人はほとんどいない。市では路線バスの利用促進に向けた取り組みを行っているが、利用者を増やすのは難しいと感じる。

○子育て世代に向けた新たな事業の提案について

- ・ 公共施設、公共交通機関、駐車場、小売店において、割引や無料サービスを受けられる「釧路市子育て応援パスポート」を発行してほしい。
- ・ 対象は母子手帳発行から中学生までとする。

○産後ケア事業について

- ・ 産後ケア事業が好評である。釧路町に所在する「助産院マタニティアイ」を釧路市民が利用する際にも補助が受けられるよう制度の拡充を求める。